

**入場無料**  
**12月12日(月)**  
**～12月18日(日)**  
**午前10時～午後8時**

(12日のみ正午開場、18日は午後6時まで)

**九段生涯学習館2階九段ギャラリー**

(東京都千代田区九段南 1-5-10 電話：03-3234-2841) 東西線・半蔵門線、都営地下鉄新宿線「九段下」駅下車 6番出口前



# 写真展 日中国交正常化50周年と 日本の中国侵略を考える

—南京大虐殺・731部隊細菌戦・毒ガス戦・重慶大爆撃・文化財略奪—

今年には1972年の日中国交回復から50周年です。たしかに「日中国交の正常化」で「戦争状態の終結」が実現されました。しかし日本の中国侵略戦争は、2000万人以上にのぼる膨大な中国人の犠牲者を出した著しく残虐で不正義の戦争でした。現実には今も戦争被害者の傷は癒えていません。しかも日本政府は日本が行った対中国戦争が侵略戦争であったことを明確に認めず、日本の戦争を美化する靖国神社を容認して支持し続けています。これは中国側の日本に対する不信を増幅させています。

更に深刻な問題は、現在の日本の安全保障政策が「中国＝仮想敵国」を基本原理に据えて運用されていることです。これは8年前の2014年以降に進められた《集団的安全保障容認の閣議決定、日米新防衛ガイドラインの改定、戦争法(安全保障関連法)成立、防衛三文書の中国条項》によって急速に現実化しています。しかも「敵中枢を攻撃する能力」「防衛費2倍化」が公言されています。

日中間の最も重要な課題は“平和な関係の実現”です。72年の「日中共同声明」は、「日本側は、過去において日本国が戦争を通じて中国国民に重大な損害を与えたことについての責任を痛感し、深く反省する。」と誓約しています。この視点に立って今回の「写真展」は①南京大虐殺、②731部隊細菌戦、③毒ガス戦、④重慶大爆撃、⑤文化財略奪の5つの戦争被害を知り、日本の中国侵略戦争の実態を学び直そうとするものです。皆様のご参観をお待ちします。

《写真展会場で毎日、ミニ講演を行います！時間は13時半～15時です》

- 12月12日(月) 田中宏さん(一橋大学名誉教授)「南京大虐殺85年から日中関係を考える」
- 12月13日(火) 瀬瀬厚さん(山口大学名誉教授)「中国侵略から日本の近現代史を考える」
- 12月14日(水) 東海林次男さん(東京都歴史教育者協議会会長)「靖国神社の“戦利獅子石”の由来など」
- 12月15日(木) 大内要三さん(軍事ジャーナリスト)「対中国日米共同作戦体制とCBR[化学・生物・放射能]戦」
- 12月16日(金) 奈須重雄さん(731部隊問題研究者)「中支那防疫給水部軍医の蚤の研究」
- 12月17日(土) 石島紀之さん(フェリス女学院大学名誉教授)「映画『苦干』に見る重慶大爆撃の実相」
- 12月18日(日) 五十嵐彰さん(慶應義塾大学講師)「文化財返還運動の思想的核と提起された諸問題」

《写真展会場で毎日、映画『苦干』(重慶爆撃下の重慶市の状況等を含むカラー映像)などを上映しています！》

**主催 NPO法人 都市無差別爆撃の原型・重慶大爆撃を語り継ぐ会**

2022.11.21

共同代表：伊香俊哉(都留文科大学教授)、前田哲男(軍事ジャーナリスト)、瀬瀬厚(山口大学名誉教授)  
粟遠奎(重慶爆撃犠牲者遺族)、馬蘭(成都爆撃犠牲者遺族)、雷時仁(梁山爆撃犠牲者遺族)

**NPO法人 731部隊・細菌戦資料センター**

共同代表：近藤昭二(ジャーナリスト)、王選(細菌戦犠牲者遺族)、奈須重雄(731部隊問題研究者)

**中国文化財返還運動を進める会**

共同代表：五十嵐彰(慶應大学非常勤講師)、瀬瀬厚(山口大学名誉教授)

東海林次男(東京都歴史教育者協議会会長)、藤田高景(村山首相談話を継承し発展させる会)

**連絡先** 〒105-0003 東京都港区西新橋 1-21-5 一瀬法律事務所 TEL03-3501-5558 (担当：元永もとなが)

**E-mail** info@ichinoselaw.com **Webサイト** http://www.anti-bombing.net http://www.anti731saikinsen.net